

国

語

(解答番号

1

3

30

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1〜8）に答えなさい。

二十世紀は、人々が、人間の知性に全幅の信頼を寄せた時代であった。人々は知性が生み出した科学を唯一の真理だと考え、経済や社会にも合理性を求めようとした。もちろん私も、そういったものを否定しようとは考えていない。科学によってとらえられるものは科学でとらえておけばよいし、合理的であるほうがよいものは、合理的につくりだせばよいのである。

しかし、そういった知性の働きだけによっては、この世界のすべてのことを、解き明かすことはできないのではないか。そんな感覚が芽生えてきたのが、今日の世界である。私たちは、知性によって合理的にとらえられるだけではとらえられない部分があることを知ったうえで、知性を働かせているのならそれでよかった。いま私たちはそう感じている。

だから、現在の私たちは問い直している。自然とは何なのだろうか、と。人間はなぜ生きているのだろうか。豊かさとは何で、人間にとって仕事とは何なのだろう。

それらはどれも、知性の力だけでは答えの出せない問いばかりである。知性の奥にある感覚が、それを感じとらなければ、<sup>A</sup> けっしてわからない問いである。なぜ私は村の春のなかに、<sup>A</sup> 豊かさ<sup>A</sup>と安心を感じとるのかという問いが、またそうであったように。

上野村にいるときは、いろいろな時間を過ごしている。川に下りて釣りをしているときもある。畑を耕しているとき、山に入っているとき、村の人たちと一緒に何かをしているとき、<sup>B</sup> 原稿を書いているとき。

面白いのは、村で暮らしているときは、<sup>B</sup> そのすべての時間が、<sup>B</sup> 平等なものとして存在していることである。東京にいるときはそうはいかない。やはり仕事の時間が主たる時間であって、他の時間は、仕事を維持するための時間として存在している。ここでは、すべての時間が平等なわけではない。

景色もまた上野村と東京とでは、違うものとして存在している。東京では私にとって景色は、漠然とした他者である。私の外に展開しているものにすぎない。ところが上野村にいるときは、景色は他者ではなく、I 私

の存在の一部としてくいとこんでいる。早春の景色が私を畑に連れていくように。春祭りの景色が、私の行動を決めているように。そして、私もまた、自分が自然と村人のつくりだす景色の一部になつてゐることに気づいて安心する。

すべての時間が平等で、主体と客体を分ける必要のない世界。私はこの世界に、時間が無事に展開してゐると感じる世界を、自然と人間が無事に存在している世界を感じとる。といつても、今日では、この世界の維持はあやうくなつてゐる。村でも、そんな世界で暮らせるヨチは狭められてきてゐるのだから。市場経済に主導されたグローバル化の進展は、標準化していく経済の時間を世界の中心にさせ、経済活動を中心にした社会をつくつていく。その動きが、すべての地域をのみこもうとする。それが、今日の資本主義の姿である。

資本主義に対する二十世紀の有力な対抗理論としては、マルクス主義Ⅱ社会主義の理論があつた。"歴史は階級闘争の歴史としてつくられてきた。その底には、経済諸力と経済的諸関係の矛盾があつた。ゆえに資本主義もまたこの矛盾をロテイしながら、労働者と資本家の対立を激化させ、それは社会主義社会の成立によつて終止符を打つだろう。こうして生まれた社会主義社会は、生産力を飛躍的に増大させながら、すべての人々に、限らない豊かさ<sup>イ</sup>と自由をホシヨウしていくだろう"

マルクス主義Ⅱ社会主義の理論が提示したのは、このようなものであつた。そして、この理論に、**Ⅱ** 社会主義者ではない人々までが魅力を感じてゐたのは、この理論が資本主義のもつ矛盾の一面を、ついていたからでもあつた。

それなのに、なぜ、マルクス主義Ⅱ社会主義の理論は、**Ⅲ** 現在では、歴史を動かす力を失つてしまつたのか。それは、この理論が、社会主義の目標である人間の解放と自由を実現するためには、時間が無事に展開する世界が、自然と人間とが無事に存在していける世界が必要だといふことをみていなくなつたからである。この点に関する限り、マルクス主義Ⅱ社会主義の理論も、世界が共通化しながら生産力を増加していく方向をむいてゐた。いわば、グローバルイズムの理論の一種であつた。そして、それがゆえに資本主義と同じ土俵にのり、資本主義のもつ効率性の前に敗退してしまつたのである。あるいは、資本主義と同じ土俵で競争しなければならなかつた無理が、国内トウセイを強めさせ、人々の不満を高めてしまつた。

だが、社会主義の敗退が、資本主義の正しさを立証したことはない。こうして、多くの人々が新しいモサクを開始した。

そのひとつの答えが、今日の反グローバル化の潮流、すなわち、ローカルな世界を無事な世界としてつくりあげることによって、いままでとは違う豊かさや自在な生き方を、新しくつくろうとする動きである。すべての労働も、すべての時間も、自然も人間も平等であると感じられる、ローカルな世界を創造しなおすことによつて、グローバル化していく資本主義と対決する動きが、ここから生まれた。

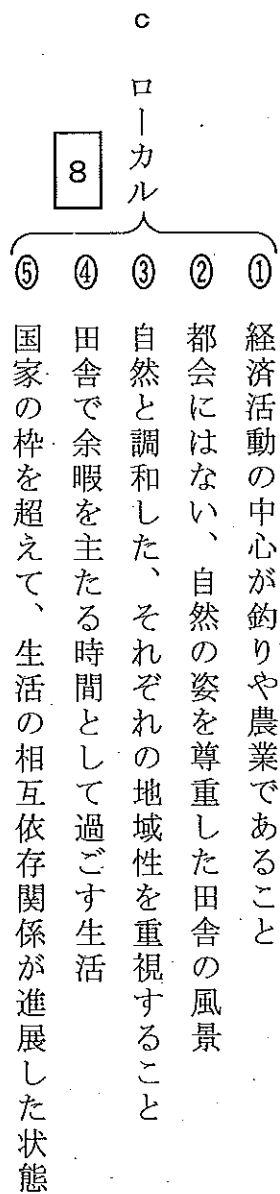
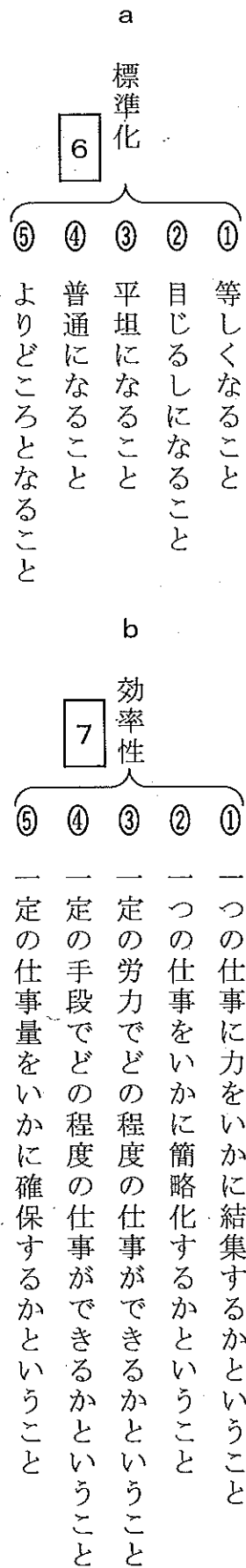
(内山 節『「里」という思想』による)

問1 傍線部ア～オのカタカナに適切なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 1 ～ 5 。

ア	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	ヨチ	(①	預	②	予	③	余	④	与	⑤	誉	)
イ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span>	ロテイ	(①	提	②	程	③	定	④	呈	⑤	抵	)
ウ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>	ホシヨウ	(①	障	②	証	③	償	④	涉	⑤	称	)
エ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</span>	トウセイ	(①	征	②	整	③	制	④	成	⑤	政	)
オ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span>	モサク	(①	錯	②	索	③	作	④	策	⑤	搾	)

問2 二重線部 a、c の意味として本文の内容に適するものを、次の各群①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **6** ～ **8**。



問3 本文中の **I** ～ **III** に入る語として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選びなさい。ただし、それぞれ一度しか使えないものとする。解答番号は I Ⅱ **9** II Ⅱ **10** III Ⅱ **11**。

- ① もつとも
- ② たとえ
- ③ 必ずしも
- ④ むしろ
- ⑤ 少なくとも

問4 傍線部A「なぜ私は村の春のなかに、豊かさと安心を感じとるのかという問い」とあるが、その答えとして適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

① 東京での生活は合理性ばかりを追求するが、村での生活は釣りや耕作、執筆などいろいろな時間を自由に過ごせるから。

② 東京の景色は私にとって漠然とした他者だが、村での景色は自然が豊かで安心できるから。

③ 村の春には春祭りなど自然と調和した行事があり、生産力を増大させる経済活動とは無縁だから。

④ 東京にいるときは仕事の時間が主たる時間だが、村では仕事よりも余暇が主たる時間だから。

⑤ 村での生活は主体と客体を分ける必要がなく、自然と人間とが無事に存在して行ける世界だから。

問5 傍線部B「そのすべての時間が、平等なものとして存在している」とあるが、どのような点で平等なのか。その説明として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

① 日常的な営みの中で過ごすどの時間も、自らの時間としてへだてのないものであり、自分の存在の確かさを実感できる時間であるという点。

② 釣り、耕作、執筆などの時間は、筆者にとってどれもかけがえのない大切な時間であり、筆者が自分らしくあり続けるために必ず確保している時間であるという点。

③ 日の出から日没までを一日の労働時間と考えた時、一つ一つの作業が予定通り完了するように時間を効率よく配分している点。

④ 生業としての仕事の時間はもとより何げない日常生活の時間も、有限の時間の中では重要な意味をも

つと考えて、全力で取り組もうとしている点。

⑤ あたかも時間割があるかのように村人の誰もが同時時間帯に同様の仕事をしているため、筆者を含めた村人の労働時間が過不足なくほぼ一定である点。

問6 傍線部C「自分が自然と村人のつくりだす景色の一部になっている」とあるが、それはどういう意味か。

その説明として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

① 自分の耕す畑も村の景色の一部であり、自分が努力しなければ村の荒廃につながるという使命感から精励した結果、村の豊かな自然を守ることには貢献できたという意味。

② 村の生活を長く続けたため、村の文化や習慣も身に付き、村人たちと価値観を共有できるようになった自分は真の村人であるという意味。

③ 都会で一消費者として暮らしていた時とは違い、村で生産者として活動している自分は自然の中で生き生きと暮らしているという意味。

④ 長い歴史の中で土を耕し続けてきた村人たちと同様に、その営みを基盤として生活する自分もまた、その営みの中に存在しているという意味。

⑤ 村の生活を続ける中で、肉体的にも精神的にも鍛えられ、厳しい自然の中で日々格闘して生きる村の人々に引けを取らないたくましさをも自分も身に付けることができたという意味。

問7 傍線部D「いわば、グローバリズムの理論の一種であった。」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

① 社会主義の理論が、農業などの第一次産業を中心とした経済構造改革に言及しなかったから。  
② 社会主義の理論が、従来の主張から脱却して、自らが市場の新しい支配者になる方向に転換できなかったから。

③ 社会主義の理論が、一人が万人のために、万人が一人のために生きていけるような社会の構築に到達できなかったから。

④ 社会主義の理論が、資本主義における労働者と資本家の対立を阻止するだけの方策をもたなかったから。

⑤ 社会主義の理論が、生産力を増大させながらすべての地域をのみこもうとしたから。

問8 本文の筆者の主張に合致するものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

① 知性の働きだけで、世界のすべてを解き明かそうとする資本主義に限界が来ているが、知性の奥にある感覚を大切にすると社会主義もまたグローバリズムの一種である。

② すべての労働も、すべての時間も、自然も人間も平等であると感じられる社会主義の世界こそが、豊かさや安心を感じとれる世界である。

③ 仕事の時間が主たる時間となる資本主義によって、自然も人間も平等であると感じられる余暇の時間が減っているが、社会主義においてもその点は解決できなかった。

④ 経済活動を中心とする資本主義には、経済諸力と経済的諸関係の矛盾があり、時間が無事に展開する

世界を必要とする社会主義に魅力を感じた人が多かつた。

⑤ グローバル化していく資本主義によって自然と人間が無事に存在する世界が狭められているが、地域性を重視することで、いままでとは違う豊かさと自在な生き方を新しくつくろうとする動きがある。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えなさい。

暖かい日射しが霜柱を溶かす。湿った黒い土の独特の匂いと足裏に感じるその感触がなつかしく、オギやヨシがまだ芽をだしていない河原に出かけてみる。土から双葉をのぞかせる草の芽生えがあちらこちらで目につく。何の変哲もない黒い土つぶが次々と緑の芽生えに姿を変え始めたようにもみえるが、土の中で眠っていた種子がいつせいに目覚めの時を迎えているのである。

今では町中の地面のほとんどがアスファルトやコンクリートや芝生などで被覆されているから、人々はほとんど土を意識することなく暮らしている。かつての町では、土はぬかるみ、泥水となつてはね、埃ほこりとなつて舞う、やっかいな代物であつた。土を覆う技術は、都市の発達になくはならないものであつた。総じて「汚いもの」として、土は近代的な都市から排除された。

植物と土は本来切つても切れない関係にある。土から水や栄養を吸収して成長し、枯ればその遺体は土にかえる。かつて農の基本は「土づくり」でもあつた。科学は土をいくつかの要素に分解し、そこから「必要なもの」「有益なもの」「有害なもの」を抽出した。近代的な農業では、要素にカンゲンアされた土から、さまざまな得体の知れないものを  X して、必要なもの、有益なものだけを残り、それらを  Y することがめざされる。

そんな見方で肥料分と水分を除いてしまえば、土は植物に病気を起こす微生物のソウクツイにすぎないということにもなる。必要なものだけを与える方が、管理しやすく効率もよい。水耕栽培、あるいはより単純な基質を用いて栽培するのが理想であるということになる。

近代的な農業の現場でも、土はどちらかといえばウトウまれる存在になつている。やっかいな土などを使わず、作物の成長に役立つものだけを根に与え、お天気に左右される太陽光も人工照明に代えた「明るく清潔な」工場の中での農業を、もうすぐ実現する夢としてとらえている人々もいる。

土が水を浄める効果についても、近代的な技術開発は、要素に分けて機能が明瞭に特定されるものだけを抽

出して利用する方向に進んだ。浄化技術は、\*<sub>1</sub> 活性汚泥処理から\*<sub>2</sub> 好気生物膜処理へと高度化がなされた。そんな流れのなかで、東京都の環境研究所で実施された合併浄化槽実験装置をもちいた実験の結果はシサ<sup>エ</sup>に富むものである。その実験では、土壤生物による処理(単に土の層を通すだけの処理)、好気生物膜処理、および活性汚泥処理による三タイプの水の浄化能力が比較された。

その結果、有機物の分解活性は土壤生物処理が他の二タイプの処理よりも格段に高く、処理水の\*<sub>3</sub> エストロゲン様物質の濃度が低く抑えられた。また、処理水が水道水として使用されることを想定して測定した\*<sub>4</sub> トリハロメタン生成能も、土壤層処理においても低くという結果が得られた。

<sup>A</sup>ハイテクに対してローテクに軍配があがったともいえるこの結果は、生態学的に見れば至極当然の結果であるといえる。それは、システムをばらばらにせずまるごと利用する、ローテクの強みともいえるであろう。土は、膨大な種類の「微小なもの」がつくるきわめて複雑なシステムである。そのシステムをさまざまに動物や有機物とともに構成しているのは、多様な生物、すなわち、細菌、菌類、藻類、小動物、植物の生きた種子などである。

それら微小なものの大多数は、ひっそりと暮らしていて目立つことはない。それらの多くが休眠しており、潜在的な力を隠している。しかし、それぞれの増殖に好都合な条件が与えられるやいなや目を覚まし、にわか<sup>B</sup>に活動を開始する。種子が芽生えとなって私たちの目の前に突然姿を表すように。そして、自身の作用によって条件が変化すればまた休眠してしまう。

土を浄化に利用するということは、多様な微生物からなるシステムがもつ潜在的に大きな力を利用するということである。

土の中には、おびただし種類<sup>C</sup>の微生物が含まれている。どんな微生物が含まれているかを調べるには、微生物の栄養となる糖などを含んだ寒天培地などで増殖させなければならぬが、そのような方法で把握できるのは、微生物相のごく一部にすぎない。土の中では、そこにどのような栄養分が含まれているかによって、休眠から目覚めて増殖する微生物の種類が変わる。ある微生物の働きで有機物が分解されると、今度は分解産物を栄養にする微生物が増えてくるというように、ユウセン<sup>D</sup>する微生物の種類は時間とともに変化する。

微生物は世代時間が短く、それぞれの種類に適した条件のもとでは急速に増殖する。そこに汚水が加えられ、汚水に含まれる有機物を栄養にして増殖できる微生物が増えて、その分解が加速度的に進むことが期待できる。薬剤耐性の進化にもみられるように、微生物の自然淘汰による進化のスピードは、驚くほど速い。自然淘汰は、そこでの汚水の浄化に適合した微生物群集の発達を、さらに強化するはずである。土は C 機能をもっているということもできる。微生物は短期間のうちに環境を変え、変えた環境に適応して、さらに環境を変えていく。何の変哲もなく見える土だが、システムとしてのその潜在力には測りしれないものがある。かつては「三尺流れて水清し」という経験則がなりたっていた。それは、水ではなく、土のもつ浄化の機能ゆえである。昔ながらの土水路や底にコンクリートが張られていないせせらぎでは、汚れた水も、土に触れながらしばらく流れていくうちに、土のもつ浄化力のおかげでその清浄さを取り戻すことができたのである。土の中で休眠している多様な微生物をはじめとする生物が失われれば、当然のことながら土のもつさまざまな潜在的機能も失われる。最近では、農地においても都市においても、土壤汚染が相当に深刻化しているようだ。土をウトんじた結果であるともいえるだろう。

浄化力に限らず土のもつ潜在的な力は果たしてどのくらい保たれているのだろうか。土という私たちにとってまだまだ謎の多いシステムの健全性が大いに気になる昨今である。特に農地の土が気がかりである。工場生産される野菜よりは、太陽の光と健全な土の力で育つ元気な野菜を食べ続けたいと思うからだ。

(鷲谷いづみ『天と地と人の間で』による)

※1 活性汚泥処理——下水に生育する微生物を廃水処理に利用する技術で、生物反応槽で攪拌・曝気することで有機物の酸化を促進する。

※2 好気生物膜処理——微小な孔のある膜を使い好气的条件で微生物による有機物分解をうながす廃水処理法。

※3 エストロジェン様物質——女性ホルモンのエストロジェンに類似した物質、環境ホルモンとしての作用が疑われる。

※4 トリハロメタン生成能——水道水の殺菌に使われる塩素が、原水に含まれているある種の有機物と反応して生成する有毒物質。

問1 傍線部ア～オのカタカナに適切なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 17 ～ 21。

ア	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">17</span>	カン	ゲン	(①)	完	(②)	監	(③)	環	(④)	敢	(⑤)	還
イ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">18</span>	ソウ	クツ	(①)	層	(②)	槽	(③)	巢	(④)	藻	(⑤)	窓
ウ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">19</span>	ウト	まれる	(①)	厭	(②)	恨	(③)	妬	(④)	疎	(⑤)	忌
エ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">20</span>	シ	サ	(①)	査	(②)	唆	(③)	差	(④)	詐	(⑤)	些
オ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">21</span>	ユウ	セン	(①)	占	(②)	先	(③)	選	(④)	専	(⑤)	潜

問2 二重線部 a・b の意味として適切なものを、次の各群①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 22 ・ 23。

- a 自然淘汰 22
- ① 生物学的に優位な遺伝子をもつ生物ほど世代時間が長いということ。
  - ② 自然界のすべての生物は、隆盛と衰退のサイクルをもっていること。
  - ③ 生存競争を繰り返した結果、種の保存が危うくなること。
  - ④ 生物のうち、外界に適応したものは栄え、適応しないものは滅びること。
  - ⑤ 環境の変化に柔軟に対応できる生物が、徐々にはびこっていくこと。

b 経験則

- 23
- ⑤ その道の専門家が、長年の経験から導いた本質。
  - ④ 理論に基づいて試行錯誤した結果、見出された原則。
  - ③ 自然破壊が進行する以前、自然界で成立していた真理。
  - ② 理論の裏づけは乏しいが、経験を通して自然につかんだ法則。
  - ① 実際に調査を進めて、初めて知った人間社会の規則。

問3 空欄 X、Y に入る語として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選びなさい。

解答番号は 24、25。

- 24 X
- ⑤ 排除
  - ④ 導入
  - ③ 調節
  - ② 操作
  - ① 補足

- 25 Y
- ⑤ 退化
  - ④ 放出
  - ③ 強化
  - ② 減少
  - ① 拡大

問4 傍線部A「ハイテクに対してローテクに軍配があがった」理由について述べているのはどれか。その説明として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 26。

① 汚水浄化において、土壤生物処理が活性汚泥処理や好気生物膜処理に匹敵する良好な評価を得たから。  
② 汚水浄化において、土壤生物処理、活性汚泥処理、好気生物膜処理の三者ともそれぞれの特長を活かした好結果を得たから。

③ 汚水浄化において、土壤生物処理、活性汚泥処理、好気生物膜処理と技術が高度化するにつれて、浄化能力の評価が下がったから。

④ 汚水浄化において、土壤生物処理が活性汚泥処理や好気生物膜処理よりも優れているという評価を得たから。

⑤ 汚水浄化において、土壤生物処理、活性汚泥処理、好気生物膜処理という三段階の処理の中で、第一段階が最も重要であるから。

問5 傍線部B「好都合な条件」とあるが、具体的には何を指すか、適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 27。

- ① 太陽光                      ② 熱                      ③ 水分                      ④ 酸素                      ⑤ 有機物

問6 空欄 C に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 28。

- ① 微生物に水や栄養分を吸収させる
- ② 鉱物や有機物とともに、多様な生物を内包して活性化する
- ③ 有機物分解を自在に調節し最適化する
- ④ 有機物を有効な基質に単純化し供給する
- ⑤ 有機物をシステム化して有効に働かせる

問7 本文の著者の考えにあてはまらないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① 土をいくつかの要素に分解、抽出する科学の手法は、近代農業に大きな影響を与え、栽培方法に変化をもたらしはじめている。
- ② 都市の近代化とともに土は人々の前から姿を消していったが、それは人々の中に「土は汚いもの」という意識があつたことが一因と考えられる。
- ③ 土が潜在的に大きな力をもつか否かは、多様な生物からなるシステムの健全性にかかっている。
- ④ 昔ながらの土水路や底にコンクリートが張られていないせせらぎの浄化システムは、現在の污水浄化技術である好気生物膜処理法に活用されている。
- ⑤ 浄化力のみならず、植物を健全に育成する力も土のもつ潜在的な力といえる。

問 8 この文章のテーマとしてタイトルをつけるとすれば、適切なものはどれか。次の①～⑤のうちから一つ  
選びなさい。解答番号は 30。

- ① 土と水
- ② 土の力
- ③ 生活と汚水処理
- ④ 都市の近代化と環境汚染
- ⑤ 微生物の潜在能力